

「エコシティたかつ」学校流域プロジェクト 環境学習授業実施報告書

実施日時	2011年7月8日(金) 14:15~15:15
実施場所	西梶ヶ谷小学校 池のビオトープ及び理科室
実施対象	西梶ヶ谷小学校 理科クラブ 約21名
実施内容	
<p>1 事前準備 (1)池のビオトープに生息する生きものを予め簡易調査し、一部を観察用に採取及び撮影した。</p> <p>2 スケジュール等 (1)スタッフ、児童全員にて、池のビオトープで生きもの採取を行った。 (2)児童がルーペ、顕微鏡、電子顕微鏡を使い、生きもの観察、スケッチを行った。【理科室】 (3)予め撮影しておいた池のビオトープ生息生物を、モニターに表示しながら解説を行った。【理科室】 (4)ビオトープについての質疑応答と、「エコシティたかつ」の説明を行った。【理科室】</p> <p>3 授業終了後 採取した生きものは、種類の記録を取り、スタッフがビオトープへと放流した。</p>	
生物・植物	
オタマジャクシ(アズマヒキガエル)、コカゲロウの幼虫、メダカ、ギンヤンマのヤゴ、ユスリカの幼虫、ミジンコ(池のビオトープ横の田圃)、ハイイロゲンゴロウの幼虫	
問題点・気付いた事・その他	
<ul style="list-style-type: none"> ・池の水面から縁までの高さが高いため、成長したオタマジャクシが縁まで上がれない可能性があるため、池から上がることができる仕組みを設置した方がよい。 (オーバーフロー部分に細かい網等が無いため、ここから池の生きものが流出している可能性がある。図参照) ・6月23日に実施した池のビオトープでの環境学習時よりも、オタマジャクシの数が少なかった。 同じく、四肢の生えきった個体も少なかったように思われる。 成長したオタマジャクシが池から出たものと思われるが、自力で池から脱出できたのかどうかは不明である。 ・田圃にはミジンコ類が大量に生息していた。 ・池のビオトープ内の生きものの種類が少なく、オタマジャクシの生息密度が非常に高い。 ・オタマジャクシが上陸した後の、池のビオトープに生息する生きものの種類及び数が少ないことに不安を感じた。 	



生きもの採取(全体の様子)



生きもの採取



ループを使用して生きもの観察



顕微鏡を使用して生きもの観察



モニターを使用して解説



オーバーフロー(内側)



オーバーフロー(外側)



足の生え始めたオタマジャクシ